

「脇本小学校の山田楽伝承活動の取組」

1 学校名

阿久根市立脇本小学校

2 学年・人数

5・6年生（計57人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成27年8月～11月 夏季休業中・総合的な学習の時間（本校体育館）
平成27年10月 1日（木） 打ちならしリハーサル（本校運動場）

(2) 発表の日時・場所

平成27年 8月 8日（土）阿久根みどこい夏祭り（Aコープ三笠店前広場他）
平成27年10月 2日（金）打ちならし（宮崎神社）
平成27年10月 4日（日）運動会（本校運動場）
平成27年10月25日（日）脇本地区民体育祭（脇本地区公民館）
平成27年11月 1日（日）出水麓祭り（出水小学校前広場）
平成27年11月23日（月）JA鹿児島いずみ農業祭（JA鹿児島いずみ本所）
平成28年 2月13日（土）障害者支援施設「あいわの里」支援センター慰問

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

山田楽（やまだがく）

(2) 由来

今から約400年ほど前、関ヶ原の戦いに出陣する際、互いの士気を高めると共に、勝利を祈願して奉納した勇壮華麗な踊りである。出水郷の地頭であった山田昌巖の考案によるもので、その姓をとって「山田楽」と名付けられた。当時から夏祭り等で盛んに踊られて奉納され、代々伝承されてきた。

(3) 構成等

山田楽の楽器は、①鑊（めはち）、②すり鐘、③大太鼓、④小太鼓の4種類で構成されている。

①鑊の衣装は、黒がすり・白半ズボン・紅白たすきを身に付けたもので、紫の頭巾を被る。手には黒の手甲、足には脚絆を付け、わらじを履く。②すり鐘は、黒の長がすりに印籠を身に付け、飾り笠を被る。鑊と同様にわらじを履く。③大太鼓は、白地のゆかた・白半ズボン・たすきを身に付ける。飾り笠・黒の手甲と脚絆・わらじは他と同様である。④小太鼓は、はんてん・白半ズボンを身に付け、頭に手ぬぐいを被る。手甲と脚絆は水色で、わらじを履き、飾りの付いた背子を背負う。

また、芸態は、戦勝を神社にて祈願する様子「祈願」、戦いに出る合図を表した様子「出陣」など、全部で8つの場面に分けて表現している。

5 保存会や地域との連携の具体

脇本小学校では、次第に衰退していくこの踊りを何とか継承したいという校区民の願いに応えるため、1984（昭和59）年以来、小学校5年生が伝承し、今日に至っている。その経緯から、保存会事務局は脇本小学校内にある。また、全保護者が賛助会員

となり、会員の会費（年間300円）により保存会の運営を行っている。

指導者は、地域の有志者2人が中心となり、必要に応じて学校職員も指導する。練習時の補助や市内外の祭りの送迎等については、保存会育成会の保護者が全面的に支援している。

また、地域の行事（校区運動会や市産業祭、JA農業祭等）に参加したり、地域の高齢者施設を訪問したりするなど、地域の活性化にも貢献している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 学校の教育課程に地域の伝統文化継承を学ぶ学習を位置付けていることで、郷土を愛し、郷土を大切にする心を培うようにしている。
- (2) 薩摩の「郷中教育」の精神を受け継ぎ、6年生（先輩）から5年生（後輩）への指導という形をとっていることも特徴的である。
- (3) 活動を始めて32年という歴史があり、児童や地域住民の愛着も深く、児童にとって自慢できる活動になっている。また、山田楽伝承活動が継続することで、児童の保護者にも経験者が確実に増えている。
- (4) 小学校に保存会事務局を設置し、全保護者を賛助会員とすることで、保護者の協力が得られ、活動への支援体制が充実している。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【山田楽伝承式】



【夏休みの練習風景】



【宮崎神社への打ちならし】



【出水麓祭り出演】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【5年生女子児童】

山田楽伝承式に参加しました。6年生が踊る山田楽はやっぱりすごかったし、かっこよかったです。32年も続くこの伝統をしっかりと6年生から受け継いで、32期生として上手に踊れるようになりたいです。

【5年生男子児童】

※ 南日本新聞「子供のうた」（平成27年10月29日付）に、以下の詩が掲載されました。

「楽しい山田楽」
五年生になつて小学校での
山田楽練習が始まります。
ぼくは小だいに
「正面に礼」にあわせ
そおらタンタタタタ
タタタタタンと
小だいをたたきます
リズムにあわせ右に左に山とび
楽しくおどれます

【6年生女子児童】

去年の夏休みから、私にとって待ちに待った山田楽練習が始まりました。最初、鐘を持った時、思った以上に重たくて、私は、「こんな重い鐘を15分も持ってたたくなんてできるのかなあ。」と思いました。師匠や先輩に教えてもらい、毎日少しずつ上手になっていきました。うでが痛くて練習に行きたくない日もありましたが、早くお祭りに行つてたくさんの人にみてもらいたいなと思つたら、がんばることができました。これからも、脇本小学校の山田楽が続いていってほしいです。

【保護者】

伝統芸能「山田楽」の伝承活動は、脇本小学校の自慢の一つです。地域の方々も毎年、夏になると山田楽の練習が始まるのを楽しみにしています。練習のサポートや送迎など、大変な部分もありましたが、子供たちが市内外の大きな舞台を経験することで、どんどん自信をつけ成長していくことが、親としてとてもうれしく思います。

【保存会】

私が小さい頃、脇本の夏祭りで最初に披露される踊りは、決まって山田楽でした。私は、小さい頃から山田楽が好きで、自宅近くに踊り衆が回ってくるのをずっと待っていたものです。この山田楽を絶対に廃れさせては駄目だと必死に、伝承活動の指導を続けてきました。保護者をはじめ、先生方や地域の皆さんの協力があつてこそ、この伝承活動は成り立っているのです。